

令和2年度 学校関係者評価

評価基準 当てはまる:3 やや当てはまる:2 当てはまらない:1

I 教育理念・教育目的

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育理念・教育目的は、養成する理学療法士、作業療法士が卒業時点においてもつべき資質を明示している	2.9	教育理念・教育目的は卒業時にもつべき資質を明示している。学生便覧に記されており、各学科の3つのポリシーにより明確に示されている。教育理念・教育目的は学生便覧に示されており、各種オリエンテーション時に伝えるようにしている。学生便覧の使用機会を増やし、具体的に理解できるような説明に努めているので学習の指針になっていると思われるが、学生の認識、利用としては十分とはいえない。教育理念・教育目的は本学院の教育上の特色を明示している。学生便覧の他、パンフレット等の配付物やホームページに載せ、各種説明会で説明している。	特記事項なし	・教育理念・教育目的は、明確に設定されている。それを受け取る学生側の認識・認識に、個人差が生じるのは仕方ない。触れる機会が増え、学習を積み重ねていく中で、浸透していくのではないかと。
2	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている	2.5			
3	本学院の教育上の特色を明示している	3.0			

II 教育目標

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	理学療法、作業療法実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している	3.0	教育目標は学生便覧に明示され、実践者および学習者の両側面から設定されている。教育目標に沿ってカリキュラムを編成しており、教育内容を概ね網羅している。具体的な表現はされているが、一部実現可能性の判断が難しいものもある。教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	特記事項なし	・適切な教育目標が設定されている。
2	教育目標は、設定した教育内容を網羅している	2.8			
3	教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている	2.7			
4	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある	3.0			

III 教育経営

III-1 教育課程編成者の活動

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育課程編成者(教育主事以上の管理者)と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育の評価との関連性を明確に理解している	2.4	教育課程と授業実践、教育の評価との関連性については、科内での討議や委員会での検討を通して理解に努めているが、教員の理解度には差があり、全体が明確に理解するまでには至っていない。教育理念・教育目標の達成に向けて、具体的な目標を設定し活動を行っている。ミーティングを通して一貫した活動を行えるように努力しているが、教員間で十分な共通認識が得られているとは言えない。	特記事項なし	・異動職種であるが故の弊害か、人事異動の度に、また同じ課題を抱える要因になっている。
2	教育課程編成者(教育主事以上の管理者)と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている	2.4			

III-2 教育課程編成の考え方とその具体的な構成

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	理学療法、作業療法学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	2.8	明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成しているが、各教員が十分に理解しているとは言えず、編成内容について検討の余地がある。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし

III-3 科目、単元構成

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している	2.7	明確な考え方と根拠をもって科目を構成しているが、教員の共通認識としては十分とは言えない。明確な考え方と根拠をもって単元を構成するよう努めているが、科目によって改善の余地がある。科目と単元が教育理念・目的、教育目標と整合性を持てるよう改善に取り組んでいるが、不十分な科目もある。構成した科目は概ね妥当と思われるが、社会情勢の変化に応じた対応は必要である。構成した科目は本学院の特徴を概ね表している。国立病院機構職員による講義や政策医療に関する単元、早期からの臨床見学など国立病院機構の特色を生かした授業がある。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している	2.5			
3	科目と単元の構成の考え方は、教育理念・目的、教育目標と整合性がある	2.5			
4	構成した科目は理学療法士、作業療法士を養成するのに妥当である	2.9			
5	構成した科目は本学院の特徴を表している	2.9			

III-4 教育計画

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	単位履修の方法とその制約が教員・学生の双方がわかるように明示され、その方法が学生の単位修得の支援となっている	2.7	単位履修の方法とその制約については学生便覧等に示されており、オリエンテーション時に説明する等周知に努めている。シラバスに学習方法及び配点を詳細に明記しており学生支援に繋がっているが、分かりやすさ、順序性など工夫が必要である。学修の質を維持できるように科目を配列しているが新カリキュラム移行期に入り関連性、順位性、履修する学年等の調整が必要である。学外の関連分野関係者と連携し、カリキュラムの検討は行っているが、具体的な見直し等は一部に留まっている。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	理学療法士・作業療法士になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている	2.6			
3	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われている	2.7			

III-5 教育課程評価の体系

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	単位認定の基準は理学療法士、作業療法士に必要な学習を認めるものとして妥当である	3.0	学則により単位認定の基準は明確であり、必要な学習を認めるものとして妥当と思われる。単位認定は基準に基づき、期末試験、レポート、特別試験等で評価され、議論が必要な場合は学科内で十分におこない運営会議で承認されている。しかし、科目、講師によって単位認定基準の難易度に差があるなど検討を要する場合がある。他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えており、単位認定が行われている。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	単位認定の方法は理学療法士、作業療法士に必要な学習を認めるものとして妥当である	2.8			
3	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている	2.9			

III-6 教員の教育・研究活動の充実

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している	2.1	<p>教員が専門性を発揮できるように、担当科目と時間数の配分を調整している。教員人事において専門性が担保されない場合もあり、必ずしも専門性が十分に発揮されているとは言えない。授業や学生対応の他に、学院の管理・運営に関する業務量が多く、授業準備が後回しになっており体制の整備が必要である。自己研鑽のシステムはあるが個人に任されており、十分に機能しているとは言えない。研修授業や教授方法の検討など相互研鑽の機会を設けているが、頻度は少なくシステムとして十分に機能しているとは言えない。</p>	<p>OT ・学事予定および教育計画に従って、計画的な業務遂行を図る ①教員の教育計画に則り、研修会や学会参加後の伝達講習を実施した。</p>	<p>・教員の専門性については、授業準備の中で自己研鑽含め専門性が身につくものもある。教員の授業準備の時間が不足している点については、今後もコロナの影響は引き続きあると考えられるので、オンラインや在宅ワーク(授業準備や研究)に充てられると時間確保につながると思われる。 個々の教員に依るところが多々あり、教員の負担が大きい印象を受ける。 ・実習指導者への教育理念、目的、目標の周知は、臨床実習を受けている施設にとっても重要で、事前に実習の手引きを回覧したり、初めて実習指導を行う職員へは、学習会を実施するなどしているが、意識・理解には差があり、十分とは言えない。実習指導者会議は、臨床現場の職員にとっても理解を深める機会となっているので次年度はWeb開催でもいいため開催していただきたい。 ・管理と運営の業務量が、教育準備の時間を制約している。 ・教員の研鑽への取り組みが不定期である。 ・教員の業務量に対し人員体制が乏しいと思われる。事務作業にかかる人員強化をはかり授業準備、研究に充てる時間を確保できないか検討する必要性を感じる。 ・教員の教育、研究活動の充実が他項目に比べて低いため改善が必要ではある。業務量全体の見直し、簡略化は難しいと思うが取り組むべき課題。</p>
2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている	1.4			
3	教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている	2.3			
4	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている	2.1			

III-7 学生の理学療法、作業療法実践体験の保障

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	臨床実習施設は、本学院の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解しているか	2.2	<p>実習の手引きを作成し、実習指導者説明会や実習地訪問の際に説明し周知に努めているが、今年はコロナウイルス感染症により資料発送に変更している。本学院の特徴はおおむね理解されていると思われるが、実習施設・実習指導者により差があり十分とは言えない。臨床実習施設は、学生の学習を支援する体制を整えているが施設間、指導者間での差があるのも事実であり、さらに協力体制が必要である。臨床実習指導者の役割は、実習の手引きに明記し、臨床実習指導者説明会にて説明しているが、昨今の実習形態の変化に伴い周知が必要である。今年はコロナウイルス感染症により中止し資料発送に変更している。学生の状況に応じて電話連絡を取り合い、適切な時期に実習地訪問を行う等の協働体制を整えており情報交換・情報共有に努めている。今年はコロナウイルス感染症により訪問を控え電話での情報交換に変更した。臨床実習に向けてのオリエンテーションや個人情報保護法の説明を行うとともに、実習の手引きに明示して伝達している。臨床実習において学生が関係する事故等があった場合、ヒヤリハット報告書の作成及び実習指導者からの情報収集等により、状況を把握し、原因分析を行い対策を講じるとともに、学生にも周知している。リスク管理・感染管理に関する講義を実施しており、臨床実習に関しては、実習の手引きに明示し、オリエンテーション時に説明するなど、計画的に指導している。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>・自己評価について特に問題なし</p>
2	臨床実習施設は学生の理学療法、作業療法実践の学習を支援する体制を整えているか	2.8			
3	臨床実習指導における学生の学びを保障するために、臨床実習指導者の役割を明確にしているか	2.8			
4	臨床実習指導者と教員の協働体制を整えているか	2.8			
5	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示しているか	3.0			
6	臨床実習において学生が関係する事故を把握、分析しているか	3.0			
7	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っているか	3.0			

IV 教授・学習方法

IV-1 授業内容のまとりの考え方

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	2.8	授業内容は各学科内で検討し学生に合せて設定している。具体的な内容は担当教員によるため相互チェック、共有の面では十分とは言えない。学科内あるいは担当教員間で授業内容について検討しており妥当性を持つよう努めているが、相互チェック、共有の面では十分とは言えない。学科内で検討を続け改善を図っているが、未だ明確になっていない部分があり、引き続き検討が必要である。	PT ・グループワークの見直し ①授業内における教員介入方法と課題内容及びグループ編成の検討(継続) ②実技試験の目的・到達目標の整理、実施方法の再検討(教育課程編成委員会資料報告)	・常により良いものをと改善に取り組んでいる。
2 授業内容のまとりは、理学療法、作業療法学の教育内容として妥当性がある。	2.5			
3 授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている	2.3			

IV-2 授業の展開過程

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 授業形態(講義、演習、実習)は、授業内容に応じて選択している。	2.8	授業形態の選択は各教員に任されており、授業内容に応じた選択に努めている。教員間で検討する場合もあり概ね適切と思われる。各学年における支援の他、学年間での取り組みも実施するなど、学生の状況に応じた学習支援に努めている。個別対応は担当教員に任せられており、シフト勤務の活用など教員の負担軽減にも配慮が必要である。ミーティングや教員間で情報共有し、協力して教育・指導に努めているが、明確な協力体制には至っていない。	PT ・理学療法技術(特に検査、評価技術)の向上にむけて取り組みを継続する ①検査技術への取り組み②知識面への取り組み(実習評価レポート、アプリーションノートの向上)③動作分析の向上 ・実技試験の目的・到達目標の整理、実施方法の再検討(教育課程編成委員会資料報告) ・学生状況についての情報共有を充実させる(面談、教員会議での情報共有を継続して実施) ・その他 ①新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴う授業教授方法の変更(遠隔授業の実施) OT ・授業の展開過程について効果的な介入を実施し、効果を検討する ①授業や演習における効果的な授業展開や評価方法の検討、およびその効果検討(教育課程編成委員会報告)	・授業内容の検討が不十分(重複する内容等)である。
2 授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している	2.7			
3 学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている	2.5			

IV-3 目標達成の評価とフィードバック

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 評価計画が立案・実施され、評価結果に基づいて、実際に授業を改善している	2.5	前期・後期に学生による授業評価、学科内での検討を通して改善に努めているが、共通のツールがなく教員に任せられている面があり十分とは言えない。多面的な評価に努めているが、実際の評価方法、教員間での共有については検討が必要である。評価基準と方法は学生便覧、シラバスに明示され、公平性を保つよう努めている。	OT ・臨床実習前後における学生能力評価について検討する ①能力評価をする評価技術項目や方法の検討(教育課程編成委員会 報告)	・目標達成評価とフィードバックについての情報共有について、内容と評価方法、評定等をすべて一覧にして、教員間で供覧し意見交換をされてはいいかがでしょうか。
2 学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている	2.3			
3 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表し、単位認定の評価には公平性が保たれている	2.9			

IV-4 学習への動機づけと支援

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	シラバスの提示は、本学院全体としての一貫性があり、学生の学習への動機づけと支援になっている。	2.6	シラバスは一貫性があり、授業初回や途中において授業目標を確認され、学生支援の動機づけに繋がっている。評価方法を具体的に明記するなどシラバスの内容の改善を図っているが、活用度、整合性については継続して検討が必要である。	PT ・実技試験の目的・到達目標の整理、実施方法の再検討(教育課程編成委員会資料報告)	・自己評価について特に問題なし

V 経営・管理過程と財政

V-1 設置者の意思

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院の管理者(主事以上)は教育理念・教育目的についての考え方を明示している	3.0	学生便覧等に明示されており、業績評価の病院目標及び学院目標にも反映されている。中期計画に示されているが十分とは言えない。適宜情報伝達や情報共有が行われているが、十分とは言えない。必要に応じて説明し理解に努めているが、十分とは言えない。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	本学院の管理者(主事以上)は教育課程経営についての考え方を明示している	2.6			
3	本学院の管理者(主事以上)は本学院の管理運営等についての考え方を明示している	2.6			
4	教職員は本学院の設置者(機構)と管理者(主事以上)の考え方を理解している	2.4			

V-2 組織体制

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている	2.8	組織体制は明確になっているが、教員の役割機能においては十分とは言えない。意思決定システムとして学科内会議、教員会議、学院運営会議が設けられており、意見を述べられる環境はつくられている。教職員の資質向上に向けてFD活動を実施しているが、教育理念・教育目的達成との整合性は十分とは言えない。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている	2.8			
3	教職員の資質の向上にむけての施策には教育理念・教育目的達成の整合性がある	2.6			

V-3 財政基盤

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である	2.4	財政基盤の確保に関する考え方は明確であるが、授業料・入学金やその他経費等については独自の配慮が必要である。幹部会議、管理会議、診療会議の報告及び決算報告や各種資料により理解に努めているが、共通の認識には至っていない。教職員は運営会議で意見を出すことができるが、各教員が財政的視点で意見が出る環境には至っていない。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	教職員は、本学院がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している	2.3			
3	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている	2.0			

V-4 施設設備の整備

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 学習・教育環境の整備について、管理者(主事以上)の考え方を明示している	2.8	必要に応じて説明しているが、建て替えなどの案件については提示できない状況にある。必要な機材等は適宜、更新されているが、年計画として整備案を作成するには至っていない。大がかりな改修は機構本部の承諾が必要であり計画的に整備案を上げるシステムにはなっていない。指定規則改定に伴う新規備品は整備され、施設の有効活用に努めているが、老朽化、冷暖房、和式トイレなどのハード面の整備は組織上、難しい状況である。東名古屋病院の防災マニュアルを置き、消防点検を実施し、防災訓練にも参加しているが、リハ学院独自の防災体制の整備、学生参加においては検討が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、スクリーン、プロジェクター、ipad、アクリル板、手指消毒等の購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備の整備については、同窓生に寄付を求められたのは、よい考え。引き続き様々な取り組みをされていくとよいと思われる。防災体制については年に1回教員と学生でリハ学院内の消火器や消火栓、避難経路の確認をされておくと良いと思われる。 ・経営状況が厳しく、老朽化した施設・設備の整備が進まない中、ソフト面は充実しており学生への手厚い支援体制が取られている。
2 管理者(主事以上)の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している	2.4			
3 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している	2.3			
4 防災に対する体制を整備している	2.2			

V-5 学生生活の支援

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている	2.8	学生生活の支援として、定期健康診断、学生相談会、寮生活の支援、奨学金利用の手続き、専門実践教育訓練給付金利用の手続き等、支援体制の整備に努めているが施設整備等、ハード面の整備については組織上難しい。現在実施している支援は活用されており、学習の継続に繋がっている。	PT ・系統的な学事スケジュールを明示し、学生の計画的な学習時間の確保や健康管理を図る ①学生便覧に記載②入学時オリエンテーション、各学年各期オリエンテーションで説明 ・その他 ①新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴う授業教授方法の変更(遠隔授業の実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし
2 支援体制は、実際に学生に活用され、学習の継続を助けている	2.7			

V-6 本学院に関する情報提供

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている	3.0	入学時の説明の他、学事や経費に関する文書の送付、教科書の購入や振込方法等に関する連絡、成績不良者への個別連絡など、適宜情報提供を行っている。定期的な情報提供と個別連絡により、理解を得やすい関係が作られ、協力・支援に繋がっている。ホームページ、パンフレットの配布、学院説明会、進学ガイダンス、病院ニュース、年報、高校訪問、研究発表等、活用できる資源を用いて広報活動を行っているが、さらに動画の活用などの工夫が必要である。今年には新型コロナウイルスにより高校訪問は中止し学院説明会は規模の縮小とともにWebの配信をおこなった。	OT ・学生支援として、情報提供の充実を図る ①保護者への案内送付および電話での情報提供と支援依頼(継続) ②学生同士の情報交換の実施方法の工夫(継続)新型コロナウイルス感染症の影響下における実施報告	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし
2 関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている	2.8			
3 理学療法士、作業療法士を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行なっている	2.5			

V-7 本学院の運営計画と将来構想

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 本学院は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している	2.3	計画的な運営を目指してSWOT、BSCを作成したが、周知が必要である。将来構想は機構本部の考えもあり明確化が難しい状況にある。	特記事項なし	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価について特に問題なし

V-8 自己点検・自己評価体制

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している	2.8	自己点検・自己評価の意味・目的に対する理解が進み、評価・点検に必要な資料も整備されたが運用面では十分とは言えない。毎年、実施する体制を整えており、改善点を見直しながら運用している。評価結果についてミーティングを行い、次年度の改善へ向けた目標を作成し一定の機能は担保されているが、課題が限局されておりカリキュラム運営や授業実践へのフィードバックとして広く機能しているとは言えない。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	自己点検・自己評価体制を整え、運用している	3.0			
3	自己点検・自己評価は、本学院のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している	2.8			

V-9 法令等の遵守

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている	3.0	自己点検表の活用を含め、法令、基準を遵守し、適正な運営がなされている。個人情報保護方針を明示し対策をとっている。教員が研修を受け、学生にもオリエンテーション等で周知を図っている。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	2.9			

VI 入学

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育理念・目的との一貫性から入学者選抜についての考え方が述べられている	2.7	入学者選抜には、教育理念・目的との一貫性から、アドミッションポリシーを明示している。入学者状況や入学者の推移について分析・検証しているが、入学者選抜方法の妥当性や教育効果の視点は不足しており、検討が必要である。	PT・OT ・募集要項にポリシーの記載 OT ・総合型選抜試験の追加	・入学者選抜方法の妥当性および教育効果の視点からの分析・検証について、内部評価のコメントで不足している点は、今後の課題として取り組まれることを期待する。
2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証されている	2.3			

VII 卒業・就職・進学

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている	2.4	期末試験と臨床実習Ⅲの結果から総合的に判断している。臨床実習前後の評価に取り組んでいるが卒業試験等は実施しておらず、到達状況の捉え方にはさらに検討が必要である。国家試験の合格率、実習での評価等の包括的な把握に留まっており、実習前後の評価や卒業前評価など明確な指標の検討、実施し分析することが必要である。就職、進学状況は把握しているが、十分な分析には至っていない。国立病院機構への就職率等は、目標との整合性を認めるが、卒業時の到達状況や他機関への就職状況の分析は不十分である。同窓会の運営に教員が参加し研修会等を実施しているが、学院主催の卒業教育を含めて組織的な体制に向けて連携、検討が必要である。	特記事項なし	・到達目標については、コロナ禍で困難な点が多々あったかと考えられる。今後卒業生のフォローを今まで以上にされる必要があると考えられるがオンライン研修も考慮されてはどうか。 ・コメントにあるように分析が不十分な側面はあるが、教員の業務量が多く、そこまで手が回らない印象を受ける。
2	卒業時の到達状況を分析している	2.2			
3	卒業生の就職・進学状況を分析している	2.3			
4	卒業生の到達状況、就職・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある	2.3			
5	卒業生への支援体制がある	2.3			

Ⅷ 地域社会／国際交流

Ⅷ-1 地域社会との連携

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している	1.4	情報の収集には努めているが、教員間の差もありさらなる工夫が必要である。学院祭や公開講座を通して地域との交流を図り、授業では老人保健施設でレクリエーション、学生有志のボランティア活動等を行っているが、組織的な貢献とまでには至っていない。今年にはコロナウイルス感染症により実施できていない。学院祭・公開講座を通して地域へ情報を発信しているが、さらに充実が必要である。今年にはコロナウイルス感染症により実施できていない。学習・教育活動の中に、老人保健施設、特別養護老人ホーム、グループホーム、介護用品ショップ、福祉工場、作業所などの見学や、老人保健施設でのレクリエーションなどを取り入れているが、今年にはコロナウイルス感染症により実施できていない。	OT ・学院や作業療法に関する情報を提供し、地域のニーズを把握する コロナ禍で電話連絡のみ ①計画的な受験希望者に対する情報提供による受験生確保 ・臨床現場におけるニーズの把握 コロナ禍で実習地訪問は電話連絡、実習指導者説明会も紙面説明に縮小。	・地域への行事がことごとく中止される中で、実施できないことが多かったと思われる。今後、例えば介護予防依頼(学院にも来るか不明だが、臨床現場には来ているのではないかと)に対して参画され、学内での学習に生かしたり、地域へもオンラインでの参画を考慮されてはどうか。 ・今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける結果となった。次年度以降、ウィズコロナを見据えて、コロナ禍でも地域社会との連携できる方法を検討し導入していく必要がある。 ・地域との関り、「地域」の対象をどのように考えるか委員会で検討してみようか。 ・4の項目で、全体の中での点数の低さが目立っています。地域内の諸資源も年々変化が大きく、コロナウイルスの事もあり、WEB環境など活用した学習など検討してもよい。 ・地域を一般的に考えるのではなく、すごく狭く考えてはどうか。 ・「地域のニーズ」の収集に東名古屋病院を利用させていただいてはどうか。 入院されている患者さんはもちろん、職員の皆さんに協力していただき、どのようなセラピストを育成すべきなのかセプトをもらってはいかがでしょうか。
2	理学療法、作業療法教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている	1.7			
3	本学院から地域社会へ情報を発信する手段をもっている	1.7			
4	地域内における諸資源を本学院の学習・教育活動に取り入れている	1.9			

Ⅷ-2 国際交流

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している	2.3	災害活動の講義や海外派遣経験者による講義を取り入れているが、授業科目の設定には至っておらず、検討が必要である。英文雑誌、インターネット環境などの整備はあるが、国際的視野を広げるための有効な活用には至っていない。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている	2.0			

Ⅸ 研究

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している	1.5	財政的な環境は担保されているが、日常業務に追われて積極的に研究活動が行える環境にはない。学院内での予演会や研究授業を通して助言・検討の場があるが、研究活動を継続的に助言・検討する体制は整備されていない。教育や管理・運営業務に重点が置かれ、研究の優先度は低い。年間計画で総合医学会などで毎年発表しているが、文化的素地があるとは言いがたい。	特記事項なし	・コロナ禍の学院の取り組み等、研究発表材料は多々あり、1つずつの事項が研究対象にならないかの視点を持つことも大切。 ・多忙を極める教員の業務の中で、個人の意識や努力だけでは、研究活動を充実させることは限界かと思われる。現在の業務を、どうすれば研究活動への時間的保障されるのか、マンパワー不足も大きな要因かと思われ、他にも何がどうなれば研究活動が行いやすい環境になるのか、見直す必要がある。研究者の視点から発言することも重要。 ・研究の定期的な取り組みの検討。
2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている	2.4			
3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が本学院にある	1.8			